

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：宇原・澤村]

TEL：0853-22-6772

FAX：0853-24-3342

令和6年度 病害虫発生予察情報 技術情報第1号

令和6年7月16日

島根県

水稲 斑点米カメムシ類の発生状況について

水稲斑点米の原因となるカメムシ類の発生が認められ、特にイネカメムシの発生が多くなっています。すでに移動が確認されているほ場が認められています。今後、現地では発生状況の把握に努めるとともに、適切な防除をお願いします。

記

1. 発生状況と今後の予想

- 1) 7月12日に出穂している極早生ほ場ですくい取り調査を行ったところ、カメムシ類合計で発生ほ場率は57.1%（平成83.6%）、平均捕獲虫数は9.4頭/20回振り（平成9.0頭）と発生量は平成並みである。
- 2) 大型のカメムシ類（ホソハリカメムシ、イネカメムシ、クモヘリカメムシ等）（図1～3）の発生ほ場率は50.0%（平成49.4%）、平均捕獲虫数9.1頭（平成7.9頭）と平成並みである（図4）。
- 3) 大型カメムシではイネカメムシがほ場率50.0%、捕獲虫数8.3頭/20回振りが多い（図5）。
- 4) 7月第2半旬までに予察灯（出雲市）での斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ及びアカヒゲホソミドリカスミカメ）の合計が77頭（平成124.5頭）と平成に比べてやや少ない。
- 5) 中国地方1か月予報（7月11日広島地方気象台発表）によると、気温は平成に比べて高くなる確率が70%と本種の発生を抑制する要因とはならない。

2 防除対策及び防除上の注意事項

- 1) 斑点米カメムシにおける粉剤、液剤による防除は、第1回目は穂揃期の3日後、第2回目はその10日後に散布する。粒剤による防除は出穂期～穂揃い期7日後までに3cm程度の湛水状態で行い、散布後7日間は止水状態を保つ。イネカメムシには出穂期とその10日後の2回防除する。
- 2) 防除後、成幼虫の発生に応じて追加防除を行う。その後、ほ場に成虫や幼虫の発生が認められる場合には追加防除を行う。広域的な一斉防除を行うとより効果的である。
- 3) ほ場内のヒエ類などはカメムシ類の増殖源となるので早急に処分する。



図1 ホソハリカメムシ
(成虫)



図2 イネカメムシ
(成虫)

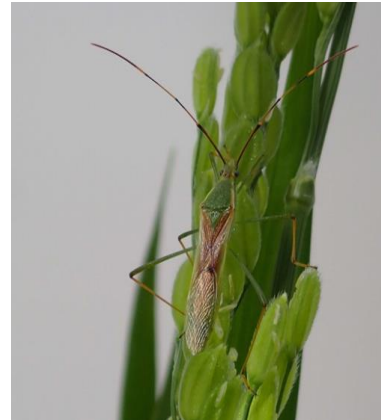


図3 クモヘリカメムシ
(成虫)

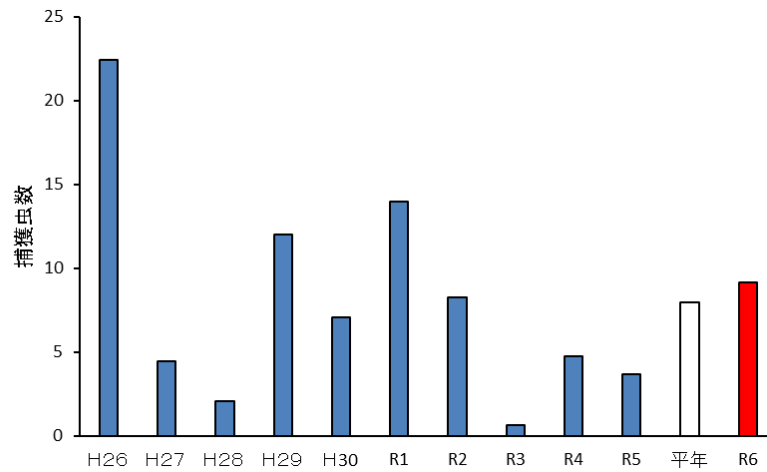


図4 大型斑点米*カメムシ類の平均捕獲虫数(水田20回振り7月中旬調査)
*ホソハリカメムシ、イネカメムシ、クモヘリカメムシ

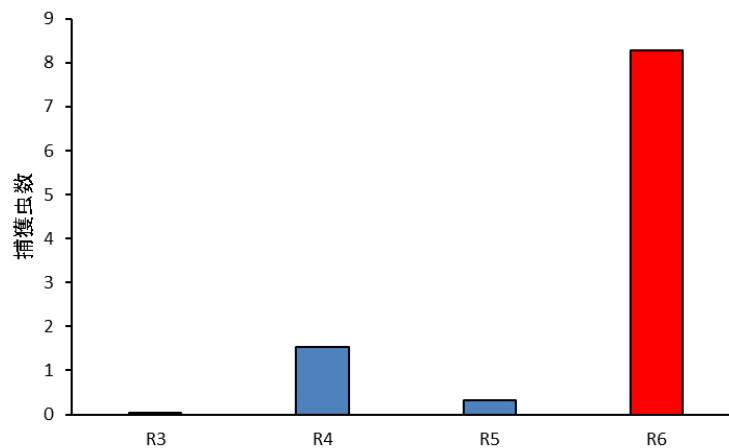


図5 イネカメムシの平均捕獲虫数(水田20回振り7月中旬調査)